

なし内側は青、藍、桔梗寸の色を現はすのであります、然しながら水滴の内面に於て二回の反射をなして、而して後に屈折して外に出つるときにはこれと反対の色を現はす所の虹が出来るのであります。

鐵道の話

菊 亭

鐵道といふものは子供が汽車々々といつて大へんに面白がるものでありますからフト思ひつきましたて貴重なる本誌を拜借してかいつまんで鐵道の話をおいたさうと思ひます、私は然り而してといふ風に六ヶ敷ことをいふのは却てらかな方でありますがさア平たく子供にもよくわかるやうに書けといはれては少々恐れ入るほうであります、出来のよ

しあしは後の評判にまかせまして少しばかりお話をいたします。

一、鐵道の起源

鐵道とはどんなものだといふ頃も子供にきかれました随分こまりました、よく考へて見れば至極尤な質問であります、今世間で鐵道と申しますと文字の通りに鐵にて造りたる軌條を敷いた道路だけを申すではなくて鐵の軌條を敷きたる線路の上を旅客をのせる客車や荷物と運ぶ貨車や郵便物を積む郵便車又手荷物を運送する手荷物車その外いろいろの車をつなぎ合はせて其真前に機關車といひて蒸汽の力で働く車をつけたもの即ち列車で多くの旅客や貨物を運ぶ一つの仕事をさして申すのであります、唯僅かに鐵道といふ二字でこれだけ長い意味をもたせるとは随分無理なことではありますが實

際さうでありますから何とも致方がありません

ぬ

扱そこで第一にチョット鐵道の起源を申しませう
さうとするとどうしても線路と此上を通行する車
とのことを申上げなければなりません、これは存
外おもしろいことであります、先づ線路のことか
ら申します、ズット古いことはとても分りません
が線路の起源は英吉利で石炭山より石炭を運ぶ時
に初まりました、最初石炭のまだ澤山に出ぬ時分
には人の肩なり背なりにて運び少し進みでは馬車
にて運んで居りましたが、かゝる手緩ひことでは
澤山掘出して山をなして居る石炭も容易に市中に
持出して金に代へることも出来ずいはゆる寶の持
くざりといふ有様で非常に困難を極めました、そ
こで石炭掘の仲間ではどうか名案もがなと工夫し

て居ります折柄千六百三十年頃即ち今より凡そ二
百七十二年前にビユーモントといふ人がニュー
カッスル、アツボン、タインといふ處で木を敷きた
る道路をつくりまして此上を石炭車を通行させる
ことにいたしました、これがそも今日線路
の起源であります、チョットさくとなんだつまら
ないといふやうなことでありますがよく味つて見
ますと餘程感服すべきことであります、此發明と
いふものは今日の如く鐵の軌條を敷くやうにした
ことよりも尙數十等も數百等も優つた發明だらう
とかもひます、斯る有様でありますから此時代は
まだ鐵道でなくて木道でありました、此木道は至
極結構なる發明ではありましたが車輪のために摩
滅することが早いから困難なる事情もありました
が先づすりへつた木道の上に更に木片を打つけて

一時姑息の修繕をして居りましたけれども充分でないところからして此次には木道の上に鐵板を張りて纒かに摩擦を防いで居りましたがかくしてもまだ充分でないからして千七百六十七年にはレイノルツといふ人が鑄鐵製の軌條を初めて製造して今までの鐵張道にかへました、然れども其頃の車は一つの車で一ぺんに澤山の石炭を運ぼうとふもひて大きな車を用ひて居りましたから其目方も大へんに重ひものでありました、故に車の通過するときに軌條が屈折れまして其修繕に困難を極めました、よつて千八百十六年には發明人の名は明らかに分りませぬがベツドリントン鐵工所におきまして練鐵の軌條を製造し次いで千八百二十年には同工場のパーキンシヨウといふ人更に練鐵軌條に改良を加へて政府より特許を得ました、こゝ

に至りて鐵道線路の狀態は今日見るところのものとしてちがはぬやうになりました、此後におきましても線路の起源及沿革に就ていろ／＼申上げることがありますが別にふもしろいこともありませんからこの邊にてやめまして次に車のことを申上げます、

Wisdom is better than we apouts of war.

智識は戦争の武器よりもよし。